

令和2年1月30日

阿賀野市議会議長 風 間 輝 榮 様

社会厚生常任委員会委員長 江 口 卓 王

所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会は、令和元年第4回議会定例会において議決を経た、閉会中の所管事務調査を下記のとおり行ったので、会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事項 阿賀野市環境センターの管理運営状況について
- 2 調査期日 令和2年1月30日(木) 午前9時00分
- 3 調査経過

令和2年1月30日、米山民生部長、山寄市民生活課長、菅井健康推進課長、山崎社会福祉課長、宮尾高齢福祉課長、齋藤生涯学習課長、並びに担当職員の出席を求めて本委員会を開催し、調査事項について阿賀野市環境センターの現地調査及び担当課長から説明を受け、質疑・意見集約を行いました。

4 調査結果

○阿賀野市環境センター及び最終処分場の管理運営状況について

環境センターは平成5年度にできた施設で、平成18年度に大規模改修、その他修繕をしながら稼働させています。1日あたり16時間の稼働で最大60トンの処理が可能ですが、現在の処理量は40トンから45トンで推移しています。焼却する温度は、ダイオキシン類を分解させるため約850℃とのことです。また、高温で焼却するため、部品が損傷しやすく交換等がたびたび必要となっています。効率よく焼却できるよう、作業員が目視で確認しながらごみの種類や水分量などを調節し、クレーンを操作して焼却炉に投入しています。今後の方向性について具体的には決まっておらず、今は情報収集を行っているとのことです。

現在の最終処分場は、以前よりも燃え残りが少なくなったため(0.2%ほど)、焼却灰を覆うための砂は少量でよくなったとのことです。搬出した焼却灰は車両により踏み固められたり覆土により圧縮されるため、正確な残容量を算出するためには、搬出量だけではわからないので、測量が必要となります。

○最終処分場予定地について

大日地内の最終処分場予定地は、国道 290 号から入る道路が細いため、国の土地であるが工事が必要となるかもしれないと説明がありました。

○広域一般廃棄物処理施設整備事業について

中間処理施設、最終処分場ともに、令和 6 年度中の供用開始を目指しています。

中間処理施設については、平成 30 年度に都市計画決定の手続き、環境影響評価、施設の基本設計等が行われ、また、最終処分場については、基本計画で概算建設費を約 33 億 7 千万円（税抜）と見込んでいたが、基本設計の中で検討したところ、東京オリンピックや災害復旧工事による資材や人件費の高騰、地下水位が高く地盤改良が必要などの理由により約 58 億 5 千万円（税抜）と増えており、現在も五泉地域衛生施設組合の事務局で専門家を交えて費用の削減に向け鋭意検討しています。検討に時間を要しておりスケジュールどおり進められるかは難しい状況であると説明がありました。

委員からは、「新しい焼却場は当初の計画からスケジュールが延びている。そうなったとき、施設設備が経年劣化していく中で、現場の作業環境含め、ごみの焼却の外部への環境面も含めてしっかりとした設備で運転ができるようにがんばっていただきたい。」また、「最終処分場はあと 10 年くらい持ちそうだが、新しいところは 4 年後に供用開始を目指すとなっている。五泉地域衛生施設組合全体で、最終処分場を埋め終わってから新しい施設を作るのが合理的だと思う。」「跡地利用に関して災害発生時の廃棄物処理に対する備えとして、最終処分場として利用する部分と合わせて、災害廃棄物の埋め立てについても重要視していただきたい。」などの意見が出されました。

以上、社会厚生常任委員会の所管事務調査の委員長報告といたします。